

平成27年度施策評価調書

整理番号	11
評価担当課	市民部 環境生活課
職・氏名	

1 施策の名称等

施策名(基本事業)	廃棄物の適正処理		
総合計画の位置づけ	基本目標	3	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり
	主要施策	2	循環型社会の形成

2 施策の現状分析と意図

施策の対象、意図(誰、何をどのようにしたいのか)	ごみの効率的な収集と適正な処理・処分を行うことによって、有害化学物質の発生を抑制し、安全で快適な生活環境を作る。
施策の現状(現状どのような手段を講じているか)	資源物の分別収集や小型家電回収事業、廃食用油及び古着の拠点回収など様々な廃棄物の減量化を進めている。また、転入者には個別に分別ガイドブック、分別ポスターを使用して廃棄物の分別方法、収集曜日等の排出方法の説明を行っている。炭化ごみ、し尿、汚泥の処理については、名寄地区衛生施設事務組合(平成25年度から1市2町1村)が運営管理を実施構成割合に応じ負担金を支出している。
施策の課題	広域一般廃棄物最終処分場の平成29年度完成を目指し、平成27年度以降は浸出水処理施設建設工事発注、埋立処分地造成工事発注を行います。

3 成果指標の達成状況

成果指標	指標の説明	区分	H24	H25	H26	目標年度(年度)
埋め立てごみの排出量	最終処分場(内淵・風連)搬入量	目標値				
		実績値	5,256t	5,539t	5,801t	
		進捗率				
尿・汚泥の排出量	名寄地区衛生施設事務組合(衛生センター)搬入量	目標値				
		実績値	3,365kl	3,302kl	3,208kl	
		進捗率				
炭化ごみの排出量	名寄地区衛生施設事務組合	目標値				
		実績値	3,340t	3,337t	3,280t	
		進捗率				
資源ごみ排出量	資源ごみ搬入量	目標値				
		実績値	1,463t	1,371t	1,402t	
		進捗率				
		目標値				
		実績値				
		進捗率				

4 施策の達成状況

施策の達成度	理由・問題点等	評価基準
B	ごみの分別、減量化が概ね順調に推移しており、処分場における分別指導や、分別ガイドブックや分別ポスターを作成し周知することにより効果が表れてきている。	A: 計画目標に向けて順調に推移 B: 計画目標に向かって概ね順調 C: 計画目標に向けて進捗はやや遅れている D: 計画目標に向け進捗は遅れている

5 今後の方向性

今後も、各家庭への周知を図り、関係機関と連携しながら取り組みを継続していく。また、平成29年度に広域最終処分場完成に向け衛生施設事務組合と連携し取り組んでいく。

6 ワーキンググループの意見等

1次評価のとおり

7 外部評価の意見等

1次評価のとおり

8 2次評価の意見等

1次評価のとおり

9 施策を構成する事務事業

(1)H26年度実施事業

事業番号	事務事業名	事業の概要	H26決算額	1次評価						外部評価	2次評価
				妥当性	有効性	効率性	公平性	達成度	評価		
1	炭化センター、衛生センター維持管理費負担金	名寄市から排出されるし尿、炭化ごみの処理負担金	334,070	a	a	b	a	a	A		
2	広域最終処分場整備事業	広域最終処分場整備に向けた調査業務及び人件費	35,012	a	a	a	a	a	A		
3	内淵最終処分場浸出水処理施設整備事業	市内全域の埋立ごみ、炭化ごみ資源物収集と処理業務	6,832	a	a	a	a	a	A		
4	塵芥収集処理事業	市内全域の埋立ごみ、炭化ごみ資源物収集と処理業務	134,593	a	a	a	a	a	A		
5	広域プラスチック等処理事業	1市2町1村から集積されたペットボトル、プラ容器を圧縮梱包業務	12,277	a	a	a	a	a	A		

(2)その他の取組(既に終了した事業や予算を伴わない取組等(1)以外の取組を記入してください。)

--

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	11	枝番	1
評価担当課・係・職名・氏名	環境生活課		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	炭化センター・衛生センター維持管理費負担事業			
総合計画の位置づけ	有・無	基本目標	Ⅲ	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり
		主要施策	2	循環型社会の形成
		基本事業	2	廃棄物の適正処理
		実施計画事業	1	炭化センター、衛生センター維持管理費負担事業

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	炭化ごみ、し尿・汚泥の適正処理					
対象(何を又は誰を)	名寄地区衛生施設事務組合(名寄市、美深町、下川町、音威子府村)の全ての住民					
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	1市2町1村で負担金を支出し運営している。					
意図(どのような成果を期待しているか)	炭化ごみ、し尿・汚泥の適正処理					
事業実施主体	名寄地区衛生施設事務組合(名寄市、美深町、下川町、音威子府村)					
事業実施方法	直 営	一部委託	全部委託	補助等	請負	その他(負担金)
事業実施期間	始期	H15 年度	終期設定	有 (終期 年度)		無
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律					

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 炭化ごみ処理量(名寄市分)	t	目標					
			実績	3,337	3,280	3,178	3,100	
	2 し尿・汚泥処理量(名寄市分)	kl	目標					
			実績	3,302	3,208	3,063	3,000	
3			目標					
			実績					
成果指標	1		目標					
			実績					
	2			目標				
				実績				

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	331,272	334,900	334,070	341,896	・名寄地区衛生施設事務組合負担金 し尿処理負担金 54,711 炭化処理負担金 279,359 合計 334,070
国道支出金					
地方債					
その他					
一般財源	331,272	334,900	334,070	341,896	
人件費	0	0	0	0	
平均給与額					
担当職員数					
総事業費	331,272	334,900	334,070	341,896	
対前年比(%)	—	101	100	102	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1				
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 有 () ---

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	広域(1市2町1村)事業として運営されている。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	炭化ごみ及びし尿・汚泥が適正に処理されており有効である。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	b	各施設の修理修繕等の経費が増える。さらに、燃料費の値上がりにより処理費用が上がっている。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	広域(1市2町1村)事業で統一されている。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	順調に炭化ごみ、し尿・汚泥処理が行われている。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	広域事業として順調に運営されている。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	11	枝番	2
評価担当課・係・職名・氏名	環境生活課		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	広域処分場整備事業			
総合計画の位置づけ	有・無	基本目標	Ⅲ	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり
		主要施策	2	循環型社会の形成
		基本事業	2	廃棄物の適正処理
		実施計画事業	4	広域最終処分場整備事業

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	埋立ごみの適正な処理のため			
対象(何を又は誰を)	1市2町1村(名寄市、美深町、下川町、音威子府村)の全ての住民			
手段=活動(仕事)	1市2町1村広域による設置			
意図(どのような成果を期待しているか)	衛生施設事務組合の構成市町村が保有する廃棄物処理場が、時期を同じくして一杯になることから、単独設置よりも経費節減となるため広域で設置を図る。			
事業実施主体	名寄地区衛生施設事務組合			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等 請負 その他(負担金)
事業実施期間	始期	25年度	終期設定	有(終期 29年度) ・ 無
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律			

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
活動指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					
	3		目標					
			実績					
成果指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	0	13,935	35,012	67,773	・広域最終処分場建設事業費名寄市負担金
国道支出金					
地方債					
その他					
一般財源	0	13,935	35,012	67,773	
人件費	0	0	0	0	
平均給与額					
担当職員数					
総事業費	0	13,935	35,012	67,773	
対前年比(%)	-	#DIV/0!	251	194	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1				
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3) 事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 有 () -

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	1市2町1村の名寄地区衛生施設事務組合で整備し埋立ごみの適正処理を行うため有効である。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	内淵処分場はあと数年で一杯となることから、廃棄物の適正処理に必要な処分場整備は有効である。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	単独設置よりも広域で設置することにより建設経費節減となるため有効である。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがいいのか？	a	広域事業であり統一される。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	平成29年度完成に向け計画的に工事発注等が行われている。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	広域事業として平成29年度完成に向け順調に整備事業を進めている。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	11	枝番	3
評価担当課・係・職名・氏名	環境生活課		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	内淵一般廃棄物最終処分場浸出水処理施設整備事業			
総合計画の位置づけ	有・無	基本目標	Ⅲ	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり
		主要施策	2	循環型社会の形成
		基本事業	2	廃棄物の適正処理
		実施計画事業	4	広域最終処分場整備事業

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	埋立ごみの適正な処理のため					
対象(何を又は誰を)	内淵一般廃棄物最終処分場浸出水処理施設					
手段＝活動(仕事)	基幹設備・機器の更新と修繕					
意図(どのような成果を期待しているか)	27年稼働している浸出水処理施設を今後閉鎖するまで浸出水の適正処理をする必要がある。					
事業実施主体	名寄市					
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等	請負	その他(負担金)
事業実施期間	始期	26年度	終期設定	有(終期	28年度)	・無
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律					

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標				
活動指標	1	m ³	目標					
	実績		40	40	40	40		
	2	目標						
			実績					
	3		目標					
			実績					
成果指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	0	0	6,832	7,020	・基幹設備の取り換え修繕
国道支出金					
地方債					
その他					
一般財源	0		6,832	7,020	
人件費	0	0	0	0	
平均給与額					
担当職員数					
総事業費	0	0	6,832	7,020	
対前年比(%)	—	#DIV/0!	#DIV/0!	103	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1				
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3) 事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

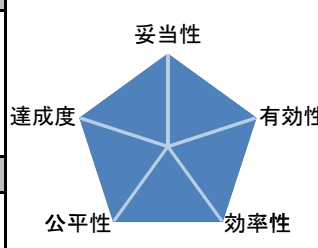
情勢の変化	平成30年度から広域最終処分場が運用開始となるが、それ以降も浸出水の水質が基準値以下になるまで運用する必要がある。
改善点	指摘事項 有 () 無

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	内淵最終処分場を適正使用するために必要である。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	内淵最終処分場の浸出水を適正に処理するために有効である。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	機器更新、修繕することで適正処理の能力を回復できる。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがはないか？	a	名寄市全体の廃棄物処理施設のため偏りはない。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	平成26年から平成28年の3カ年で機器更新と修繕を行い処理能力を維持する。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	必要な機器更新と修繕を計画的に進めることにより、浸出水の適正処理を行う。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	11	枝番	4
評価担当課・係・職名・氏名	環境生活課廃棄物対策係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	塵芥収集処理事業			
総合計画の位置づけ	有	基本目標	3	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり
	無	主要施策	2	循環型社会の形成
		基本事業	2	廃棄物の適正処理
		実施計画事業	2	収集に係る整備

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	廃棄物の効率的な収集と適正な処理・処分を行うことによって、有害化学物質の発生を抑制し、安全で快適な生活環境をつくれます。				
対象(何を又は誰を)	市民が排出する廃棄物				
手段=活動(仕事)	分別ガイドブック、分別ポスター等を使用した廃棄物の分別方法、収集曜日等の排出方法の周知。				
意図(どのような成果を期待しているか)	廃棄物の排出抑制と適正な分別による排出。				
事業実施主体	名寄市				
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等	請負 その他()
事業実施期間	始期	S48年度	終期設定	有(終期年度)	無
根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度(年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 埋立ごみ収集処理量	t	目標					
	実績		1938	1964	1896	1800		
	2 炭化ごみ収集処理量	t	目標					
実績	2058		2039	1968	1900			
成果指標	3 資源ごみ収集処理量	t	目標					
	実績		1234	1262	1202	1250		
	1		目標					
2		目標						

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳	
事業費	132,624	126,870	134,593	151,396	01報酬	1,742,688円
国道支出金					04共済費	567,031円
地方債					07賃金	1,708,805円
その他					09旅費	140,600円
一般財源	132,624	126,870	134,593	151,396	11需用費	3,670,815円
人件費	3,342	3,315	3,315	3,315	12役務費	400,273円
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	13委託料	125,563,373円
担当職員数	0.50	0.50	0.50	0.50	14使用料	690,120円
総事業費	135,966	130,185	137,908	154,711	27公課費	109,700円
対前年比(%)	-	96	106	112	コストの算出方法	
事業コスト						
活動指標1						
活動指標2						
活動指標3						

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3) 事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	廃棄物による環境汚染、最終処分場の延命化等による廃棄物の減量化の必要性が認識され、その都度廃棄物の分別及び排出方法等を変更してきた。
改善点	指摘事項 有 () 無

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	一般廃棄物については、廃棄物の処理及び清掃に関する法律によって、「市町村は適正な処理に必要な措置を講ずるよう努める」と規定されているため、市が主体的に実施しなければならない。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	一般廃棄物収集等業務委託、紙製容器・古紙類収集処理委託等、廃掃法の委託基準を満たし、職員の質的向上、能率的運営からサービス向上、専門的知識を有した人員を確保する観点からも有効と判断する。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	事業費の9割を占める委託費については、廃棄物収集・処理に関する委託業務等審議委員会に諮っており、適正と判断する。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	対象は一般廃棄物を排出しようとする全市民となっており、受益者負担は廃棄物を排出しようとする市民が負担をするため問題ない。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	排出された廃棄物の収集及び処理を適正に行われている。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	廃棄物の効率的な収集と適正な処理・処分を行うことによって、有害化学物質の発生を抑制し、安全で快適な生活環境をつくるためには、かかせない事業であり、今後も国の動向を注視していく必要がある。	
A: 現状のまま継続 B: 進め方を改善 C: 規模・内容を見直し D: 抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	11	枝番	5
評価担当課・係・職名・氏名	環境生活課廃棄物対策係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	広域プラスチック等処理			
総合計画の位置づけ	有	基本目標	Ⅲ	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり
	無	主要施策	2	環境型社会の形成
		基本事業	2	廃棄物の適正処理
		実施計画事業	1	施設の適正運営

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	環境問題も含め、新たな社会システムの構築が急務となっており、リサイクル(再資源化)の推進を通じ、環境と調和した「循環型社会」の構築を図ります。			
対象(何を又は誰を)	市民が排出するプラスチック容器包装類及びペットボトル			
手段=活動(仕事)	分別ガイドブック、分別ポスター等を使用した廃棄物の分別方法、収集曜日等の排出方法の周知。			
意図(どのような成果を期待しているか)	廃棄物の排出抑制と適正な分別による排出。			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等 請負 その他()
事業実施期間	始期	H12年度	終期設定	有(終期年度) 無
根拠法令・条例等	容器包装リサイクル法			

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 広域ペットボトル搬入量	t	目標					
			実績	119.84	125.51	101.56	100	
	2 広域その他プラ容器搬入量	t	目標					
			実績	491.48	489.86	483.73	480	
	3		目標					
			実績					
成果指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	11,651	11,079	12,277	13,177	02給料 240,000円 11需用費 5,075,105円 12役務費 48,600円 13委託料 6,913,080円
国道支出金					
地方債					
その他					
一般財源	11,651	11,079	12,277	13,177	
人件費	2,205	2,188	2,188	2,188	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数	0.33	0.33	0.33	0.33	
総事業費	13,856	13,267	14,465	15,365	
対前年比(%)	-	96	109	106	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1				
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3) 事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 有 () 無

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性	a	容器包装リサイクル法では、「家庭から排出された容器包装について収集、分別、異物除去などを行う」、「特定分別基準適合物を保管施設に保管し、分別基準に適合させること」と規定されているため、市が主体的に実施しなければならない。
市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？		
有効性	a	収集された対象物を、プラスチック圧縮梱包業務、ペットボトル中間処理業務を委託することにより、施設・機械・車両の修繕メンテが図られること、特殊車両等の運転技術者等の確保できる観点からも有効と判断する。
効率性	a	廃棄物収集・処理に関する委託業務等審議委員会に諮っており、適正と判断する。
経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？		
公平性	a	対象は、プラスチック容器包装類及びペットボトルを排出する全市民となるので問題ない。
達成度	a	容器包装リサイクルを適正に実施している。
活動指標、成果指標の達成度は？		

5 1次評価

評価結果	理由	
A	リサイクル(再資源化)を推進し、「循環型社会」の構築に向けてかかせない事業である。今後も、国の動向に注視していく必要がある、	
A:現状のまま継続	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	
B:進め方を改善		
C:規模・内容を見直し		
D:抜本的な見直し(廃止・縮小)		

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり